

報告事項 カ

平成30年度鳥取県教育研究大会の開催概要について

平成30年度鳥取県教育研究大会の開催概要について、別紙のとおり報告します。

平成30年12月20日

鳥取県教育委員会教育長 山本仁志

平成30年度鳥取県教育研究大会の開催概要について

小中学校課

1 趣旨

県教育委員会では、学ぶ力や豊かな人間性と社会性の育成を図るため、各園（所）・学校の取組への支援を進めている。

本研究大会では、鳥取県の「教育に関する大綱」に掲げる取組方針を踏まえ、講演、各校種における実践事例の発表等とおして、県内の幼児・児童・生徒の学びの質の向上、豊かな人間性や社会性の育成及び安全で、安心して通える園（所）・学校づくりの一層の推進を図る。

2 開催日時・会場

- (1) 日時 平成30年12月11日（火） 午前10時から午後4時30分まで
- (2) 会場 鳥取県立倉吉未来中心 大ホール他

3 参加者

約340名（幼稚園・保育所・認定こども園・小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・特別支援学校の教職員、市町村教育委員会等の行政関係者（教育委員、指導主事等）等）

4 内容

(1) 全体会・報告

- ①鳥取県の「教育に関する大綱」について
- ②平成30年度の鳥取県の取組について
- ③小中学校における地域課題に応じた学力向上推進事業について

(2) 分科会

【分科会1】

<テーマ>

スーパーグローバルハイスクール（SGH）の成果と課題
～地域・世界とつながり新しい価値を創造するグローバル・リーダーの育成～

- 発表 鳥取県立鳥取西高等学校
- 概要

将来、地域・世界とつながり新しい価値を創造し、様々なスケールで活躍するグローバル・リーダーの育成を目指した取組として、鳥取西高等学校全生徒を対象とした、協同的・探究的な学び、課題研究「思索と表現」、海外交流等を軸とした実践を発表。

- 参加者の感想
 - ・グローバルに生徒を動かすには、どのような道筋をつければよいのかがよく分かった。現在の環境でこれを実現させるのは至難の業であるが、人と人とのつながりの大切さを学ぶ発表であった。
 - ・とても興味深く拝聴した。小学校も早期にグローバルな視点で交流や研究ができればよいと思う。



【分科会2】

<テーマ>

自らの生き方を考える道徳授業の創造～生きる指針を見いだすための道徳授業の構築をめざして～

- 発表 鳥取市立鹿野学園
- 概要

学年団、教務団で構成された「道研」や、生徒が自分のこととして考え語る授業づくり、道徳を中心とした教育活動の広がり等、学校全体で取り組む道徳教育の実践を発表。

- 参加者の感想
 - ・発表者の熱い思いが感じられ、道徳のこれからの指導の在り方について考えさせられた。考え、議論する道徳について本校も研修を進めたい。
 - ・勤務校でも道徳教育を研究教科として学校経営の核にしているので、大変刺激を受けた。「道研」は学校の実状に合わせた形で取り入れていきたい。何かに特化して取り組むと学校の教育活動全体に成果が波及する好事例だと思った。



【分科会 3】

<テーマ>

幼保小の連携・接続の充実に向けて

～幼児期に身に付けた力を小学校以降の学びにつなぐ連携・接続の在り方～

○発表 北栄町教育委員会事務局教育総務課

○概要

幼児期から義務教育段階までの15年間における子どもの育ちを保障するための取組として、認定こども園、保育所、小学校の職員間の連携のための合同研修会や保育体験、スタートカリキュラムの共有化等の実践を発表。

○参加者の感想

- ・今行っていることを体系的に整理し、町全体での教職員の共通理解の上で、計画的、協働的に取り組んでおられることがすばらしかった。教員同士がつながることが大事だと改めて思った。
- ・お互いの校種について知ることは、子ども理解の視点を広く持ったり、自らの指導に生かしたりして、子どもの育ちをつなげて育てていくことにつながると思っている。本校の活動に生かしていきたいと思う。



【分科会 4】

<テーマ>

鳥取県版スーパープロフェッショナルハイスクール（SPH）事業報告～農林業人材育成の取組～

○発表 鳥取県立智頭農林高等学校

○概要

地域と連携し、未来の林業等地域産業を担うプロフェッショナル人材を育成するため、長期就業体験や林業における6次産業化教育の実施、中山間地域の石積み棚田の補修等の地域連携・貢献、また、学習指導の改善等の取組を発表。



<テーマ>

鳥取県版スーパープロフェッショナルハイスクール（SPH）事業報告

～水産業人材育成の取組・さらなる連携を目指して～

○発表 鳥取県立境港総合技術高等学校

○概要

県内で唯一水産科がある高等学校のミッションとして、将来の水産業を担う人材の育成を目指し、漁業体験活動、養殖漁業者の見学や企業との連携、水産関係イベントへの生徒参加、総合高校の特性を生かした学科間連携等の取組を発表。



○参加者の感想

- ・地域の大人（社会人）とつなげて生徒を動かす、行動させること、これで生徒の動機はますます強化されていくのだと感じた。
- ・専門学科の強みを生かして、社会に開かれた教育課程を実現されていることに、林業、水産等の未来を感じることができた。
- ・県版SPHの取組がよく理解できた。地域連携の在り方として、大いに参考になった。
- ・地元の産業が活発になるように、高校と企業が連携していることがすばらしかった。
- ・職業科の地域・企業と連携した活動と、そこに積極的に参加し、卒業後もその分野に進む生徒が増えていることはすばらしかった。

【分科会5】

<テーマ>

気高中学校区の保小中連携による安心・安全な学級づくり ～支援プログラム及び短時間グループアプローチなどの取組をとおして～

○発表 鳥取市立浜村小学校、鳥取市立気高中学校

○概要

小1プロブレムの予防等を目的として情動をコントロールするためにつくられた「START」プログラムを活用した幼小連携の取組と、中学校における不安のコントロール等を目的とした「勇者の旅」プログラムや短時間グループアプローチの実践等を発表。

○参加者の感想

- ・異なる校（園）種間の信頼関係に基づく人的交流が非常に重要だと感じた。保小中の共通言語をもつことは、安心・安全な学級づくりに大きく寄与するとわかった。
- ・情動のコントロールが難しい子どもが増えている中で、STARTプログラムや勇者の旅のような自分の感情をコントロールさせる取組は必要なことだと思った。
- ・保小の「STARTプログラム」、小中の「勇者の旅プログラム」等、校区として子どもを育てている取組が、子ども達にも伝わっている感じがした。



【分科会6】

<テーマ>

通級指導教室の役割と実践～大山町立大山中学校通級指導教室の取組～

○発表 大山町立大山中学校

○概要

通級指導教室に通う小中学校児童生徒の障がい起因する困難さを改善・克服するため、指導者が「どのような子どもに（実態把握）」「どんな指導をして（指導）」「どうなったか（評価）」を意識し、児童生徒目線に立つことを大切に実践を発表。



<テーマ>

鳥取県の高等学校における通級指導

○発表 鳥取県教育委員会事務局高等学校課

○概要

今年度から始まった高等学校における通級による指導について、鳥取県内の設置状況等の説明と各校での取組状況について発表。



○参加者の感想

- ・小中の経験を持っておられる内田先生の話は説得力があった。小中高の連携の大切さを実感した。
- ・通級による指導の実態について具体的に説明があり、他校の様子を知るとともに、理解を深めることができた。通級指導教室が、小中学校だけでなく高等学校にも開かれたことにより、これまで以上に連続性が重要となってくる。今後、引き継ぎのためのツールや時間を確保していくことがますます重要になってくると思う。
- ・高等学校での自立活動の必要性を、年々感じるようになってきている。
- ・通級による指導について、制度的なところから知ることができて大変有意義だった。

(3) 講演

<演題>

「新学習指導要領で求められる主体的・対話的で深い学び」

○講師

國學院大學 人間開発学部初等教育学科

教授 田村 学 氏

○概要

「主体的・対話的で深い学び」は、これからの時代に必要
な学び方を示したものの。

「深い学び」とは、子どもたちが各教科等固有の学習活動
の中で、それまで身に付けていた知識や技能を存分に活
用・発揮し、その結果、知識・技能が相互に関連付けられ
たり組み合わせられたりして、事実に基づいた個別知識から、
概念的で構造的な知識へ高度化されることと言える。その
ために、各種思考ツールの活用や振り返りなども有効。

今後も児童生徒の自立を目指すために、子どもを主体として仲間と学び合える、新しい学びの場づくりが
求められている。



○参加者の感想

- ・「主体的・対話的で深い学び」につなげるために、幼児期に自尊感情を育てたり試行錯誤の経験をさせたりすることが大切になると感じた。幼児期にいろいろな経験をすることができるように、幼児期の終わりまでに育ててほしい10の姿も踏まえて保育の内容を考えていきたいと思う。
- ・これから目指すべき教育の在り方について、その背景、考え方の本質などがよくわかった。特に、具体的な授業場面と関連付け、子どものつぶやきを分析しながら解説いただいたことで、深い学びについての理解が深まった。
- ・リフレクション（振り返り）の大切さを感じた。振り返りでは、事実の確認、関係性や一般化の生成、自己変容の認識ができると知った。また、自己の学びをアウトプットすることにより深い学びにつなげることができるかと再認識することができた。
- ・具体的な事例を示してくださったことにより、「深い学び」が私の中でも起こったように思う。プラスのスパイラルをどう作るかが大切であると感じた。
- ・「深い学び」をどう捉えるかは、難しいと考えていたが、具体的な実践例の中で示していただき、大変わかりやすいお話だった。子どもが深い学びをしていると見取れるか、そのためには深い学びをした子どものイメージを持てるのかが、教師として求められると思う。
- ・自分自身の実践を振り返る機会となった。アクティブ・ラーニングの本質を教えていただいた気がする。あくまでも中心は子どもである、そのことがよくわかり大変充実した講演だった。
- ・田村先生のスライドに出てくる子ども達のような姿が、自分のクラスでも見られるようにがんばりたい。
- ・「深い学び」については、いつもよく分からず曖昧になっていた感じがあった。今日のお話を聞いて、ずいぶんクリアになった気がする。意識して日々の授業を展開するだけでも、変わってくると思った。